

# 小 問

## 小 論 文 (外国学校出身者) 令和三年度

### 注 意

- (1) 「解答はじめ」というまで開いてはいけない。
- (2) 問題は一冊(本文十ページ、下書用紙は二枚)、解答用紙は四枚である。下書用紙は問題冊子の中にはさみこんであるので引き抜いて使ってよい。
- (3) 全部の解答用紙に受験番号を書くこと。受験番号は次の要領で明確に記入すること。  
(例) 受験番号 G9101 番の場合  

G	9	1	0	1
---	---	---	---	---
- (4) 解答は解答用紙の所定の位置に書くこと。他の所に書いても無効である。字数などの指示がある場合は、その指示に従って書くこと。解答文はたて書きとする。
- (5) 解答用紙の余白は採点者が使用するので、誤字脱字の訂正のほかには使ってはいけない。
- (6) 書き損じしても、かわりの用紙は交付しない。
- (7) 試験終了後、問題冊子と下書用紙は持ち帰ること。

次の文章を読んで、後の問一～問四に答えなさい。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、  
公開していません。



著作権保護の観点から、  
公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。

出典：ステイブ・スローマン、フィリップ・ファーンバック著、（土方奈美訳）『知ってるつもり——無知の科学』（早川書房、二〇一八年）ただし、本文の一部に改変および省略がある。

設問

問一 本文中の傍線部①について著者が「恣意的に思える」理由を、本文に即して二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 本文中の傍線部②のように著者が考える根拠について、本文に即して二〇〇字以内で説明しなさい。

問三 本文中の傍線部③のようなケースは、どのような場合に起きるか。著者の主張を踏まえた上で、あなたの考えを三〇〇字以内で述べなさい。

問四 本文中の傍線部④で指摘されるような、個人に比べてコミュニティが果たす役割が過小評価されてきた具体的な事例を挙げ、その原因と解決策を九〇〇字以内で検討しなさい。